

配置のコンセプト等（案）

（1）壁画について

① 配置場所について

- 広く市民の方が見ることができる場所とする。
- 壁画は、雨、紫外線等の影響を受けやすいため、できる限りこれらの要因を排除できる場所とする。

② 野見宿禰とギリシャの女神

- これらの作品は、対をなすもので、かつ、旧国立競技場のシンボリックなものである。このことから両作品をひとつのものとして正面性のある場所に設置する
- セレブレイトされるような置き方を工夫する。

③ 壁画のまとまりについて

- 時代背景や文化を継承するための重要な資料であり、1964年オリンピックの記憶を伝承するため、ひとまとまりの1964年オリンピック記念コーナー（仮）を設置する。
- 旧国立競技場ではスタジアムの中に配置されていたため入場者しか見ることができなかった壁画を広く公開し、市民が散策できる位置とする。
- 壁画に描かれた「テーマ、色味、構成」のバランスを考慮した置き方を工夫する。

（2）炬火台（聖火台）について

- 炬火台は、極めて象徴的なものであり、レガシー時には象徴的な試合やイベントの際には、点火出来る運用を行う。
- 旧競技場においては、“野見の宿禰”、“ギリシャの女神”の壁画と“炬火台”は極めて象徴的なものであるため、できれば、この3点を集約し、1つのフレームに収まるような場所とする。（炬火台の利用については法的確認が必要）

（3）銘盤について

- 広く市民の方が見ることができる場所とする。
- 旧国立競技場で開催された過去の大規模な大会の銘盤であるため、できる限りひとまりとする。
- 2020年オリンピック・パラリンピック終了後においても、世界的な大会が開始されることを鑑み、冗長性のある場所を選定する。

(4) 出陣学徒の碑

- 学徒出陣のゲートがあったと思われる場所（旧国立と同様の位置）に設置する。

(5) 彫刻品（銅像）について

それぞれの作品の特徴を整理し、配置する。

① 健康美、青年像

- 本2作品については、彫刻として象徴的なもので、対をなしているものであったため、新配置計画についても同様に對をなすものとする。
- 旧配置では、オリンピック・パラリンピック時の正面ゲートに配置されていたことから、新計画では、来場者が一番多いと想定するゲートの場所とする。

② 波、無題

- 波、無題とも“水”に関連する作品であることから“水辺の里庭”のゾーンに配置する。

※今後の設計の中で、地下鉄に干渉しないように幅広めに想定しておく。

③ 円盤投げ像、槍投げ像、御者像

- それぞれの競技を表現しており、これらを一群として配置する。
- 広く見てもらうため、ゲート付近に設置する。